

令和5年度 第1回埼玉県生涯学習審議会 次第

日 時：令和5年10月31日（火）
午後1時30分～午後3時
会 場：知事公館中議室（WEB併用）

1 あいさつ

2 会長及び副会長の選出

3 開 会

4 議 事

- (1) リカレント教育の推進について
- (2) その他

5 閉 会

【配付資料】

- | | |
|--------------------------------|-----|
| 1 埼玉県生涯学習審議会委員名簿 | 資料1 |
| 2 リカレント教育と生涯学習活動に関する埼玉県の現状について | 資料2 |

埼玉県生涯学習審議会委員名簿

資料 1

(任期：令和 7 年 8 月 3 日まで)

| ふり がな 氏 名 | 現 職 名 等 |
|--------------------|--|
| おおにし れいこ 大西 麗衣子 | 尚美学園大学准教授 |
| かきぬま みつお 柿沼 光夫 | 埼玉県都市教育長協議会副会長 (久喜市教育委員会教育長) |
| かとう みゆき 加藤 美幸 | 埼玉県家庭教育振興協議会理事 |
| くぼき のりこ 久保木 則子 | 「町ぐるみん白岡」副会長 |
| さとう まさし 佐藤 昌史 | 蕨市立図書館長 |
| すずき まさと 鈴木 正人 | 埼玉県議会文教委員長 |
| たなか たいち 田中 太一 | 公益社団法人日本青年会議所関東地区 埼玉ブロック協議会会長 |
| てらだ たけお 寺田 竹雄 | 埼玉縣市町村社会教育委員連絡協議会会長 |
| なかじま はるみ 中島 晴美 | 上尾市立平方北小学校長 |
| はせがわ みつお 長谷川 光男 | る・ぼる・デ川口代表 |
| はやし としゆき 林 俊幸 | 一般社団法人埼玉県子ども会連合会常務理事 |
| ひらの まさみ 平野 正美 | 株式会社テレビ埼玉東京支社次長 |
| ひろさわ けんいち 廣澤 健一 | 一般社団法人埼玉県経営者協会専務理事 |
| まえかわ やすえ 前川 康恵 | 埼玉県地域婦人会連合会理事 (蕨市旭町婦人会会長) |
| まえはら たつぶ 前原 辰信 | ほりかねデマンド・ラボ会長 (公募委員) |
| やはぎ しゅういち 矢作 修一 | 青少年育成さいたま市民会議青少年育成 中島地区会事業委員 (公募委員) |
| やまだ まなみ 山田 真奈美 | 埼玉県公民館連絡協議会副会長 (上里町中央公民館長) |
| やまもと かずひと 山本 和人 | 東京家政大学名誉教授 |
| わたなべ みほ 渡辺 美穂 | 独立行政法人国立女性教育会館研究国際室長 (併) 主任研究員 |

リカレント教育と生涯学習活動に関する埼玉県の実況について

1 リカレント教育とは

元来はいつでも学び直しができるシステムという広い意味を持つものであり、リカレント教育の中には、①**アップスキリング**：キャリアチェンジを伴わずに現在の職務を遂行する上で求められる能力・スキルを追加的に身に付けること、②**リスキリング**：現在の職務の延長線上では身に付けることが困難な時代のニーズに即した能力・スキルを身に付けることその他、③**職業とは直接的には結びつかない技術や教養等に関する学び直し**を含む。

(第 11 期中央教育審議会生涯学習分科会における議論の整理より)

2 国の第 4 期教育振興基本計画より

社会経済の発展の観点からは、イノベーション人材をはじめとする高度専門人材の不足や労働生産性の低迷が指摘される中、社会人の学び直しが十分に進んでいない状況に対し、リカレント教育、とりわけリスキリングの重要性が指摘されている。また、人生 100 年時代において、高齢者を含めた全ての人々が豊かな人生を送ることができるよう、生涯を通じそれぞれのニーズに応じて学習することを可能とすることが重要である。

3 埼玉県生涯学習推進指針より

社会の変化が激しいこれからの時代においては、一人一人の学ぶ時期や進路が複線化する人生のマルチステージモデルへと進展することが予想されます。若い頃に身に付けた知識・技能だけに頼るのではなく、リカレント教育やリスキリングといった、職業生活も含め生涯を通じて新たな知識・技能を学び、身に付けることが、変化に適応し充実した人生を送る上で重要になります。

県はこれまで、若者から高齢者まで多様な世代が新たな学びを始めるきっかけづくりや生涯にわたって学ぶことのできる環境づくりに取り組んできました。

今後は、これまでの取組を基に、様々な機関等と連携しつつ、社会の変化に対応した学習機会の提供に一層取り組んでいくことが求められます。

「人生 100 年時代」と呼ばれる社会において、高齢者が生き生きとしたセカンドライフを過ごす上でも、「新たな学び」やリカレント教育等の「学び直し」による社会参加の促進が求められます。

こうした課題を踏まえ、子供から高齢者まで、全ての県民が生涯にわたり心豊かな充実した生活を送ることができるよう、「多様な学習機会の充実」と「地域社会における人々の絆の形成」に対する支援も求められます。

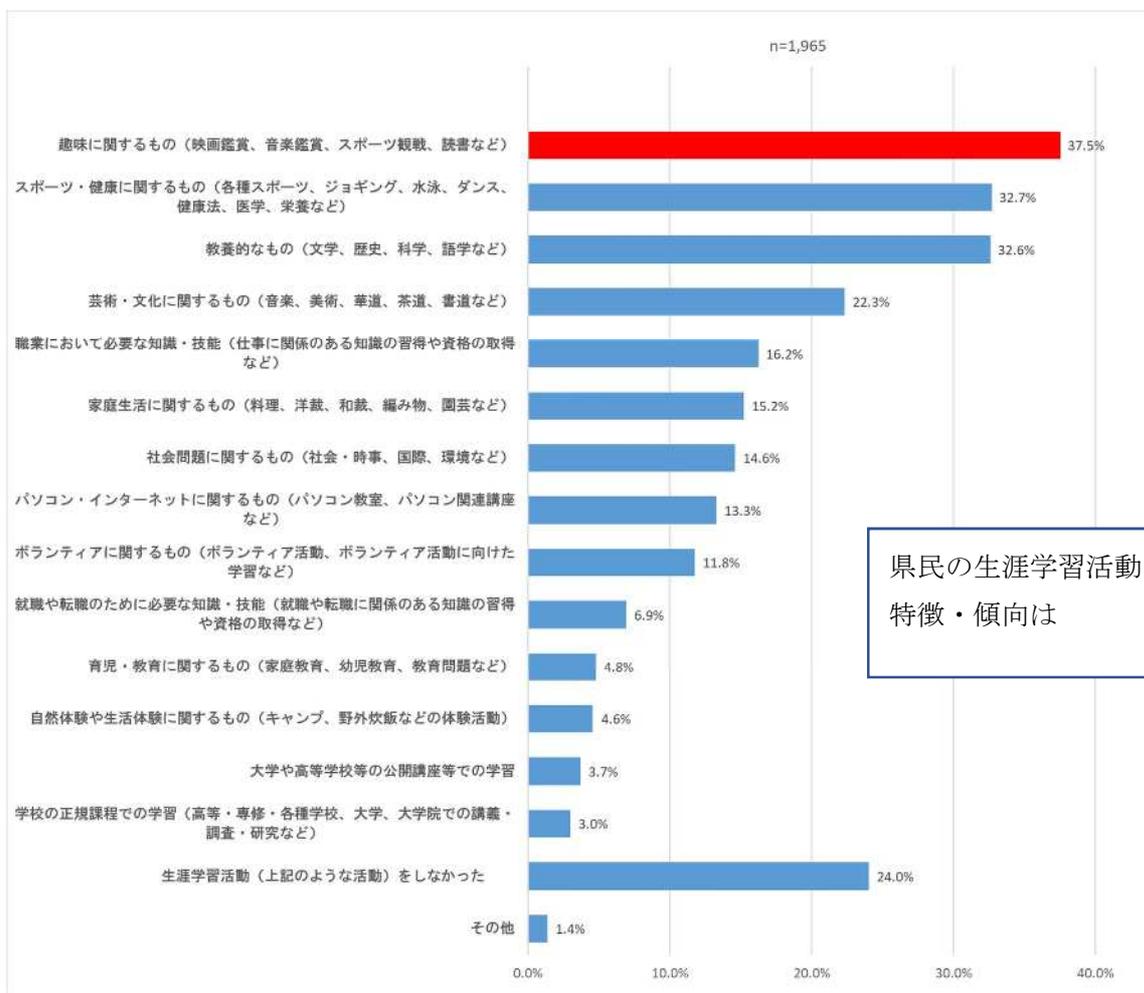


○県に求められる支援（期待される支援含む）について

- ・資質向上に資する研修の充実
- ・県民のニーズに応じた事業の充実
- ・連携ネットワークの構築
- ・市町村への支援

4 県民の生涯学習推進状況（令和4年度県政サポーターアンケートより）

(1) あなたは、この1年くらいの間どのような生涯学習活動をしましたか。
 (複数回答)



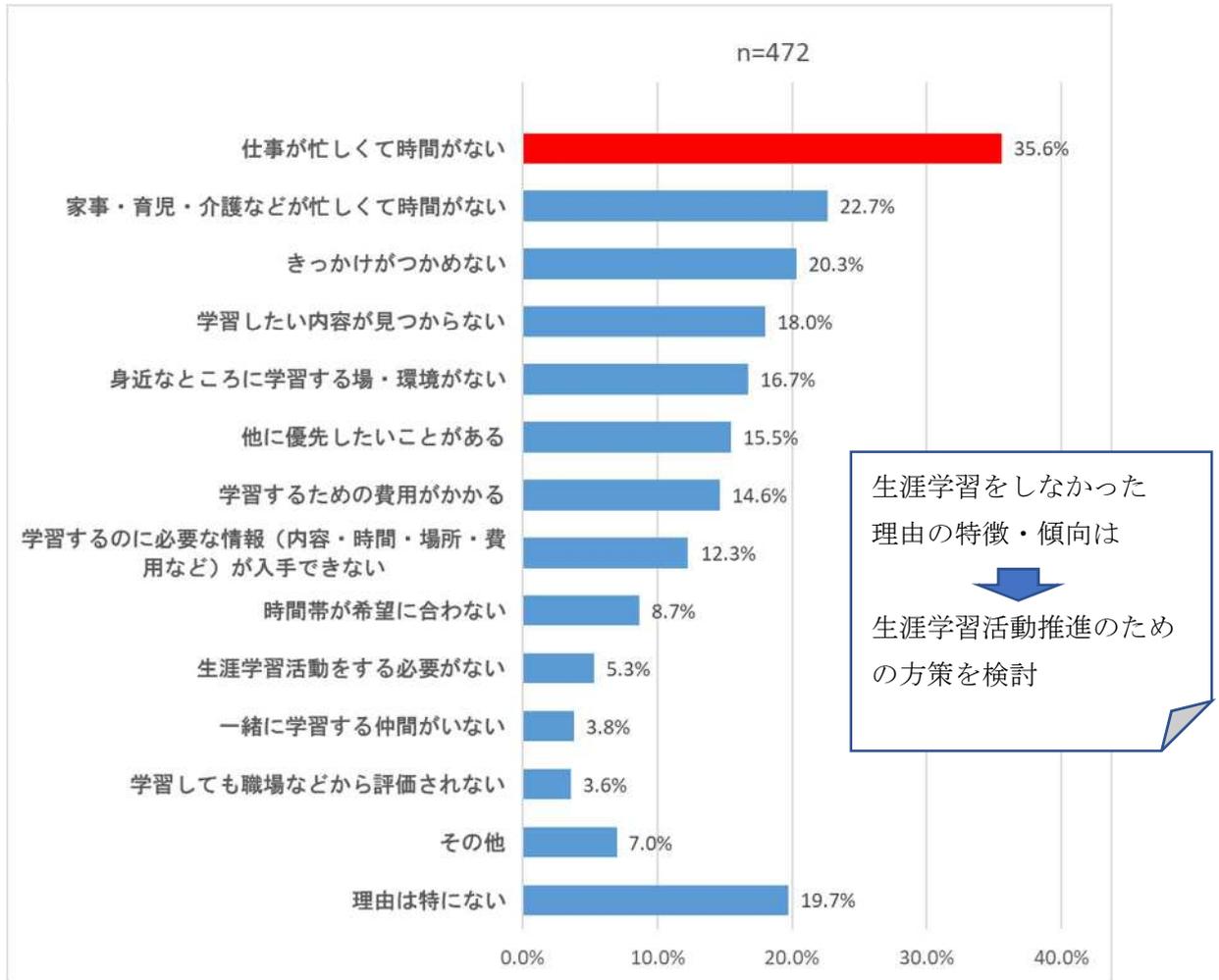
県民の生涯学習活動の
 特徴・傾向は

生涯学習活動をしたという
 回答は 74.6%

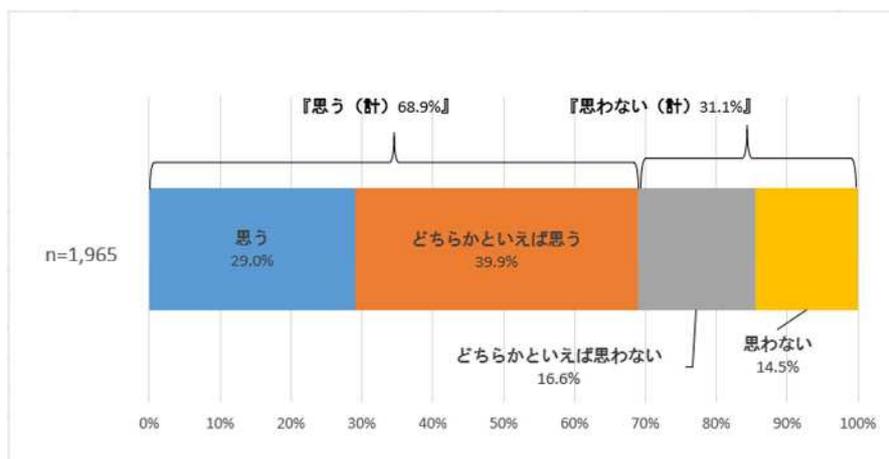
調査時期：令和4年12月15日～12月21日
 調査方法：インターネット
 対象者：県政サポーター（県内在住3,051人）
 回収率：64.4%（回収数1,965人）

(2) あなたがこの1年くらいの間に生涯学習活動をしなかった理由は何ですか。

※ (1) で生涯学習をしなかったと回答した者 (複数回答)



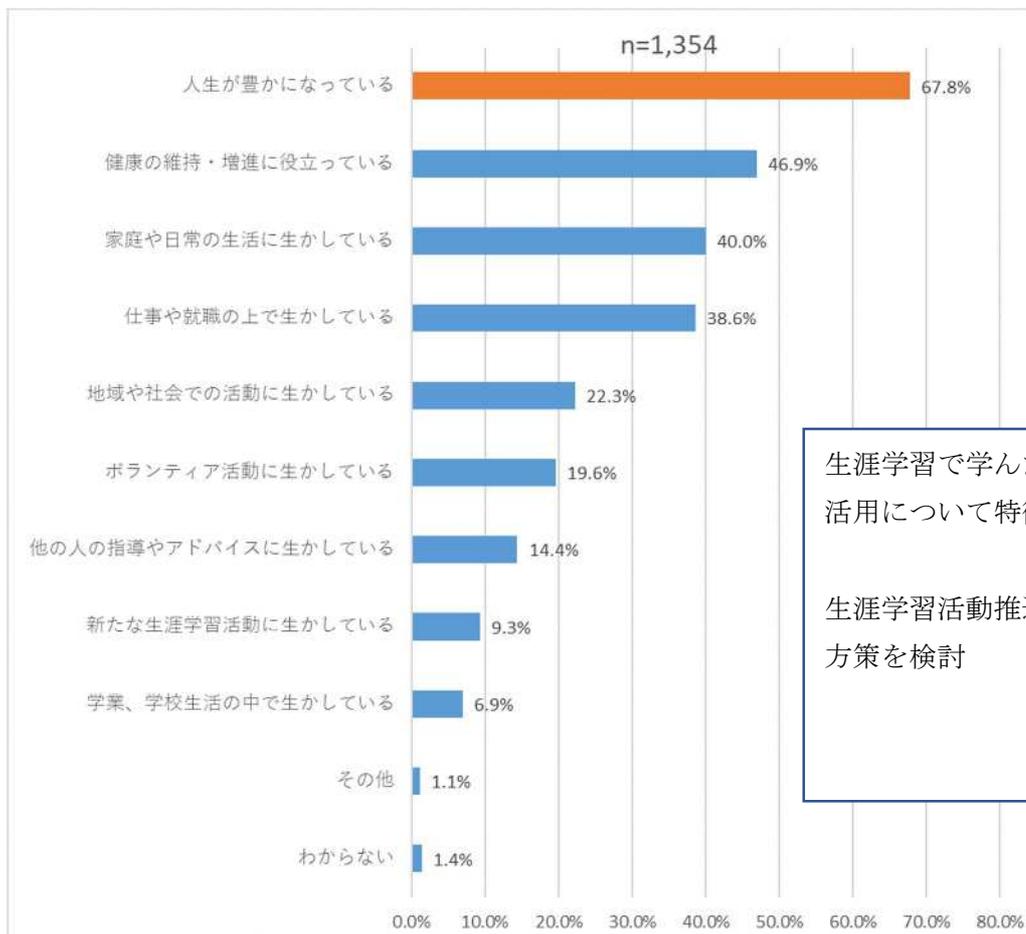
(3) あなたがこれまでの生涯学習活動を通じて学んだ知識や技能、経験等を生活や仕事に生かしていると思いますか。



生涯学習活動を通じて学んだ知識等を生活や仕事に生かしていると思うという回答は 68.9%

(4) あなたがこれまでの生涯学習活動で学んだ知識や技能、経験等はどうのように生かしていますか。

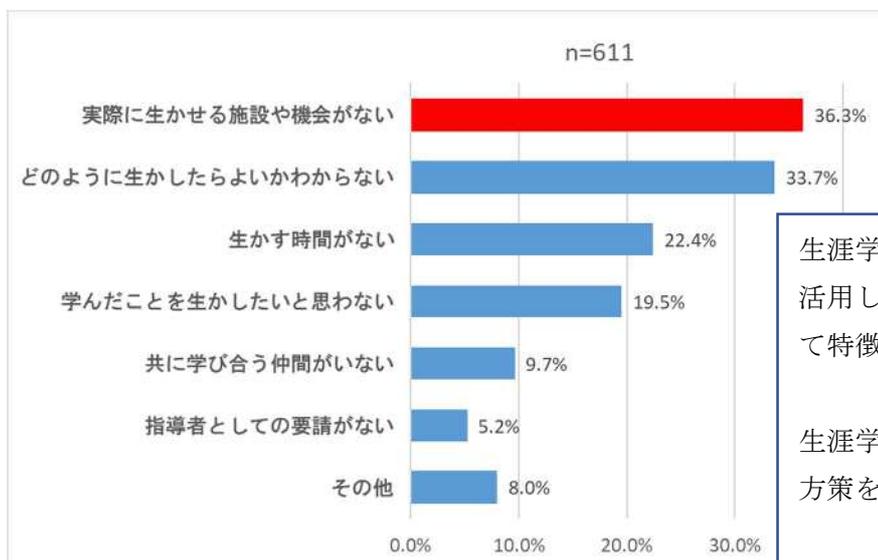
※ (3) で生かしていると回答した者 (複数回答)



生涯学習で学んだ知識等の活用について特徴・傾向は
生涯学習活動推進のための方策を検討

(5) あなたがこれまでの生涯学習活動で学んだ知識や技能、経験等を生かしていないのはなぜですか。

※ (3) で生かしていないと回答した者 (複数回答)



生涯学習で学んだ知識等を活用していない理由について特徴・傾向は
↓
生涯学習活動推進のための方策を検討